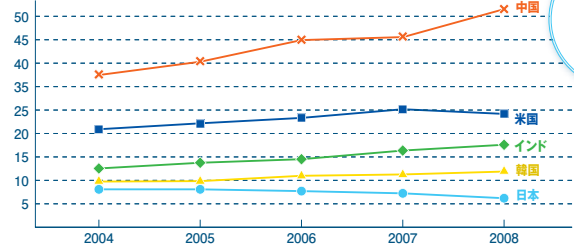
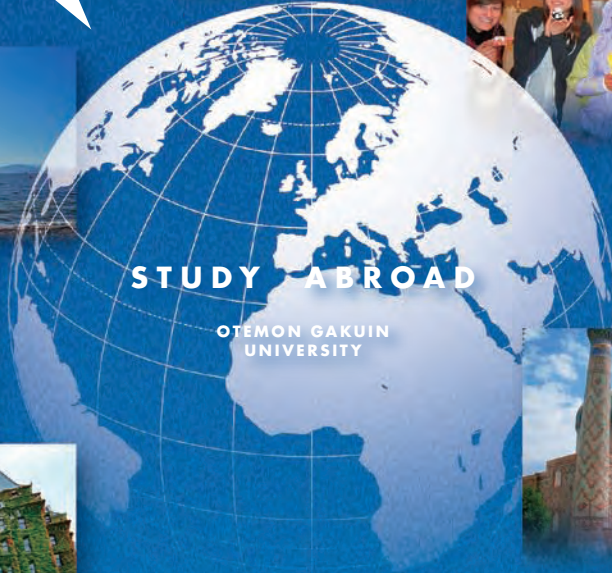


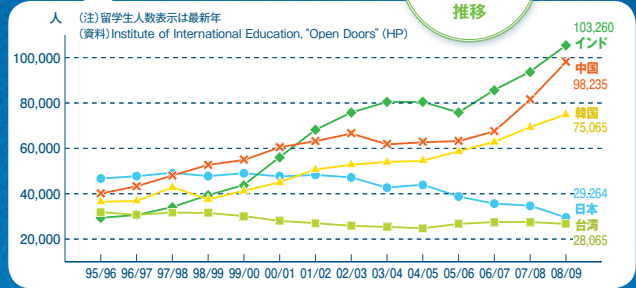
万人 ミシンクタンク、OECDなど調べ



Pick Up  
海外留学  
する学生の  
人数



Pick Up  
米国における  
アジア留学生の  
推移



キミの未来を切り開く

# 海外体験

経済や社会は今、急速なグローバル化が進んでいる。その流れに連動するように、世界から注目を集めるインドや中国、さらには韓国などの学生は積極的に海外へ留学する。一方で、日本人学生の目は世界に向かっているのか。そして、グローバル人材にもとめられるスキルとは何か。今まさに、一人ひとりの学生に問われようとしている。

[Written by: 難波 亮祐]

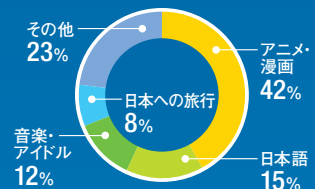


## 追手門学院大学 正規留学生への アンケート

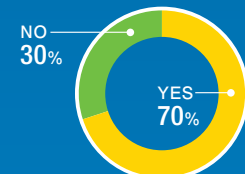
(中国人26名・韓国人1名)

1年次から本学に在籍している「正規留学生(中国人26名・韓国人1名)」を対象とした。日本に興味を持ち始めたきっかけとして、最も多かったのがアニメ・漫画。留学の目的に関しては、将来的に日本で働きたいと考えている学生が多かった。日本人との交流も比較的多いと回答した学生が目立ち、交流も盛んに行われているようだ。

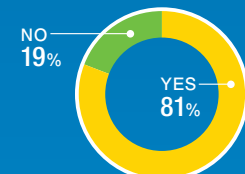
### Q 日本に興味を持ち始めたキッカケは何ですか?



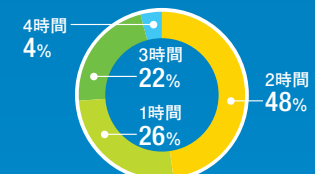
### Q 留学は就職のことを考えてですか?



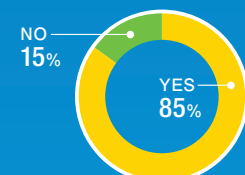
### Q 将来日本で働きたいですか?



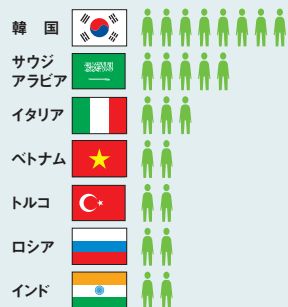
### Q 授業外に一日何時間勉強していますか?



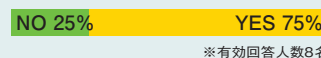
### Q 日本人との交流は頻繁にありますか?



### 留学先のクラスにいた学生の国籍



### 留学先のクラスに日本人はいましたか?



※有効回答人数8名

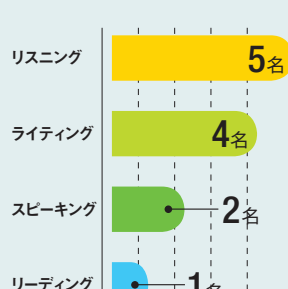
### 留学先での一日の授業時間



### 留学先での勉強時間

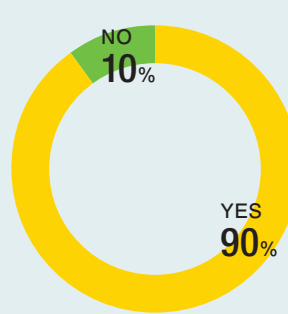


### 留学先で伸びた分野



※有効回答人数10名  
有効回答数12

### 語学力をいかした仕事につきたいですか?



※有効回答人数10名

交換留学体験者の調査結果より、留学先のクラスには8名中6名に日本人がいたと回答。ほぼ全員が言語学習のみの語学学校への留学だったことなどが、比較的日本人が多くなった要因のようだ(※インドは追手の学生特設のコースとなるので調査対象からは除外)。また、中国への留学者は3名とも日本人がいたと回答。経済発展に伴う中国留学への注目度の上昇を反映していることが予想される。留学先で出会った国籍で一番多かったのが、韓国。続いてサウジアラビアという回答が目立った。そして、驚くことにすべての留学先で韓国の学生が見られた(インドを除く)。

※注1 中国人・アメリカ人の留学生も多いが、交換留学の行き先を中国・アメリカのため、これらの国は統計から除外している。

## 日本人学生の有無。そして留学先で 出会う外国人学生の国籍。



### 留学先にいる外国人・日本人

## 成績上昇の余地が大きいほど、 留学による効果も大きなものに。

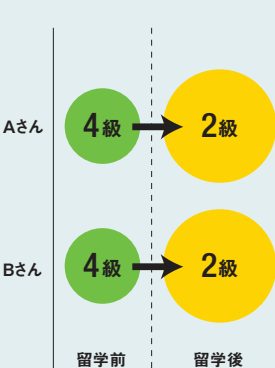


### 留学で伸びる語学力

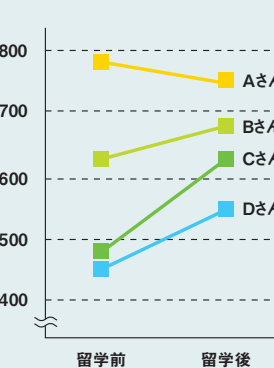
留学後の変化としては、ほぼ全ての学生に成績の上昇が見られた。TOEIC®では、特に留学前に400点台だった学生の成績が急上昇。中国検定でも同様に、留学後の成績上昇が見られた。二例とも4級から2級への変化であり、TOEIC®と同様に成績上昇の余地が大きいほど、成績がアップする傾向にあった。全般的にみると、留学後に伸びた分野では、リスニングとライティングの成長が目立つ。授業はすべて留学先の言語であり、自然とリスニング学習をしていることになる。また、課題などで自らの意見をまとめる機会が多く、それがライティングの向上にもつながっているようだ。

留学後の変化としては、ほぼ全ての学生に成績の上昇が見られた。TOEIC®では、特に留学前に400点台だった学生の成績が急上昇。中国検定でも同様に、留学後の成績上昇が見られた。二例とも4級から2級への変化であり、TOEIC®と同様に成績上昇の余地が大きいほど、成績がアップする傾向にあった。全般的にみると、留学後に伸びた分野では、リスニングとライティングの成長が目立つ。授業はすべて留学先の言語であり、自然とリスニング学習をしていることになる。また、課題などで自らの意見をまとめる機会が多く、それがライティングの向上にもつながっているようだ。

### 中国語検定の変化



### TOEIC®の変化



## 海外への強い志向。身につけた 語学を活かせる仕事へ。



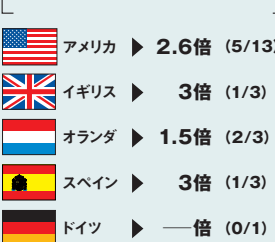
### 将来の希望

10名中9名が語学を活かした職業に就きたいと回答。具体的な希望先は、商社、海外駐在員、通訳、貿易会社などが挙げられた。留学経験により海外が身近なものとなり、「世界を舞台に活躍をしたい」という、国際的な視野が広がったことの表れだろう。調査対象者には、これまでに海外に在住していた学生はおらず、海外経験を通じてカルチャーショックなど大変なことも少なくなかったかと思われる。しかし調査結果を見ると、自ら海外へ飛び込む意志を持ち、さまざまな困難にも立ち向かいながら、挑戦を続ける学生像が浮かび上がってきた。

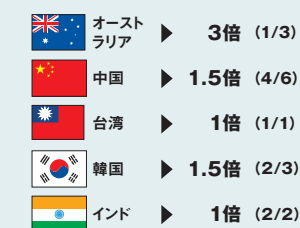


目的や条件に合わせられる3つの留学制度を用意。本学には大きく分けて3つの留学方法がある。1つ目の方法は約4か月間の交換留学制度だ。本学との協定大学へ派遣され、必要な費用は留学先での滞在費・生活費のみである。2012年度は、実質33名の応募があり、派遣者は19名で、倍率は約1.7倍だった。2つ目の方法は海外研修プログラムで、短いもので8日間、長いもので1か月のプログラムが用意されている。費用もそれぞれ異なり、一週間程度のもので約14〜18万円、4週間程度のもので、約30〜40万円(※中国は約14万円)。海外研修プログラムの参加には、原則説明会に参加しなければならぬ(P14〜15参照)。3つ目の方法は認定留学。留学先での学習内容を本学の単位として認定するもので、準備期間に余裕をもつて考えなければならぬ留学方法だ。少なくとも留学希望日の半年前には、個別に国際交流教育センターへ相談が必要である。

### 交換留学の応募倍率(国毎)



2012年度実績  
カッコ内は留学人数/応募者数[のべ]



※交換留学は、学内の試験・審査に合格する必要があります。

### 交換留学に参加した学生数

(2012年度実績)

### 大学が主催するプログラムで 留学した学生の延べ人数

(2011年度実績)



# 追手門の国際交流

— 2011年度交換留学生10名の体験から追手門の国際交流の実態を徹底調査!

[ Written by: 難波 亮祐 ]

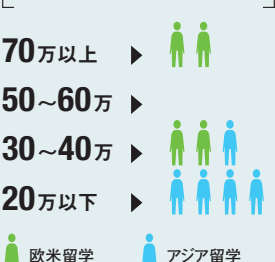


### 留学費用

留学費用における欧米、アジアの格差。アルバイト代のみでの留学も。

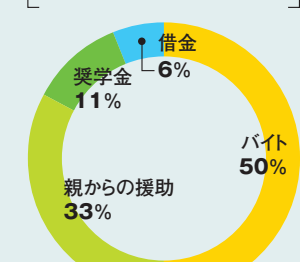
欧米では4名の調査結果として、30〜40万円(約10万/1か月)が2名、70万円以上(約18万/1ヶ月)が2名という回答となった。勉強のみに集中していた学生と、時には観光などを楽しんだ学生との差が現れた。後者の場合、留学費用をバイト代だけで賄うことは難しく、金銭的な問題が一つのハードルになりそう。アジアは5名(インド2名、中国3名)の調査結果で、インドの留学費用では2名とともに10万円程度と回答。中国は2名が20万円程度、1名が30〜40万円であった。欧米の留学費用の調査結果と比較するとリーズナブルに感じられ、実際に3名がアルバイト代のみで留学費用を賄ったと答えている。

### 交換留学にかかった費用



※有効回答人数9名

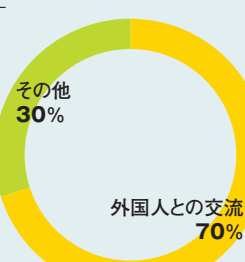
### 留学費用の捻出方法



※有効回答人数10名  
有効回答数18

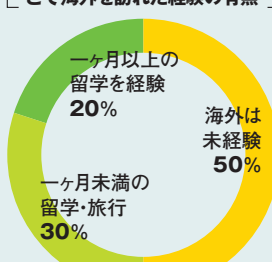
学内での外国人留学生との交流から海外留学への関心が高まる傾向に。留学に興味を持ったきっかけとして、10名中7名が外国人との接点を挙げた。中でも、6名が学内の留学生との交流経験を挙げ、学内で留学への関心を抱いた学生が多かった。学内には「日本語パートナープログラム」や、外国人留学生向けの授業に参加できる制度など、さまざまな形で日常的に留学生との接点を持つことができる。そこでの留学生たちとの交流が、海外留学志望へと発展するケースが多いようだ。やはり、外国人との接点を持つことが、異文化体験への関心を高める一番の方法といえる。

### 留学に興味を持ったきっかけ



※有効回答人数10名

### 大学入学以前に旅行・留学などで海外を訪れた経験の有無



※有効回答人数10名





高尾 典史 常務理事

「OTEMON to the World」をキャッチフレーズに、国際教育の強化を進めて3年余。多様なチャンスを提供すること、豊富なきっかけを大学が用意することが大切だと考えています。

海外留学については、チャンスの拡大と支援の強化。福島前国際交流教育センター長の尽力などもあり、数年前にはわずか数校だった海外提携校が今では20校に増えました。しかしまだまだ充分と言えない数ではありません。アジアを軸足としつつ、欧米を含め世界を開拓していきます。

また、サポート制度として留学を支援するしくみにも注力しています。具体的には、単位認定の



単位認定、提携校拡大など「留学したくなる環境」をつくる

「OTEMON to the World」をキャッチフレーズに、国際教育の強化を進めて3年余。多様なチャンスを提供すること、豊富なきっかけを大学が用意することが大切だと考えています。

海外留学については、チャンスの拡大と支援の強化。福島前国際交流教育センター長の尽力などもあり、数年前にはわずか数校だった海外提携校が今では20校に増えました。しかしまだまだ充分と言えない数ではありません。アジアを軸足としつつ、欧米を含め世界を開拓していきます。

また、サポート制度として留学を支援するしくみにも注力しています。具体的には、単位認定の

拡充、留学前後の事前・事後学習の強化、留学期間中のフォロー、費用のサポートなどです。それによって、より「留学したくなる環境」を提供できるよう、体制づくりを進めています。

**国際キャリアコースを筆頭に「挑戦できるしなげ」を増やす**

大きな構想としては、新たに「国際キャリアコース」を設置する計画が進んでいます。一定の語学力をもつ人を対象に高い語学力と国際センスを備えたグローバル人材を育成する新コースで、2013年4月以降に入学する学生が対象。TOEIC®500点以上などの条件設定を考えています。本コースでは、学生の1年間(2年の秋学期と3年の春学期)の海外留学を組み込んだプログラムとし、留学先大学での取得単位を卒業要件単位として一括認定できるようにしたい。留学期間中の本学授業料相当額を奨学金として付与するなど、資金面の負担軽減もはかります。

こうした体制強化を突破口に、コース対象学生はもちろん、大学

全体の国際化を強化していくことができると考えています。たとえば語学系授業における習熟度別クラス編成の拡充や、日本の文化経済を英語で学べる授業など。また、より気軽に英語に親しめる環境づくりとして、イングリッシュカフェ(仮称)をつくりたい。目標は、キャンパスの中の小さな外国。今夏、そのパイロットプログラムであるイングリッシュサマープログラムを実施し、準備は着々と進んでいます。

若者の内向き志向などと言われますが、自分の力を破りたいと意欲をもっている追大生がたくさんいるのは知っています。そんなみんなのために「学び取れる環境」と「挑戦できるしなげ」をどんどんつくっていきます。ですから、そうした「しなげ」を見つけたら、迷わず食いついてほしい。意欲あふみななチャレンジを大学は全力で応援します。



構想実現に向けて、早くもパイロットプログラムを実施

この9月、イングリッシュカフェのパイロット版として「イングリッシュサマープログラム」が実施された。少人数の目的別クラスでディスカッションや会話を通して英語のコミュニケーション力が磨けると参加した学生に好評。本格始動が待ち遠しい。



ディスカッションを中心とした外国人講師の授業を受けたい。

留学して、グローバルな現場の今を体感したい。

新しいことにチャレンジしたい。自分の限界を超えるために。

大学が授業外で提供する語学の学習環境が充実しているのはありがたいと思います。外部講師の質が高く、また頑張っている学生ばかりなのでいい刺激をもらえて。そうした経験に感化されて、今は自らの成長のためにもぜひ留学をしたいと考えています。

ただ、追大の交換留学制度は協定校の数や留学期間の選択肢が豊富とはいいがたく、残念に感じるのは事実。また、普段の授業も受動的な座学の授業を主体とするのではなく、ディスカッションやプレゼンテーションを主体とした能動的な形式の授業を取り入れてほしいと感じています。授業外プログラムの増設など学習環境の充実を期待しています。



外国人交換留学生

台湾 静宜大学  
留学期間—10ヶ月  
**Ko, Chia-Hsiang** さん

Q 追手門学院大学の印象はどうですか。  
A 海外からの留学生に対して、とても優しいですね。日本語もよく教えてくれます。

Q 今はどんなことを学んでいますか。  
A 主に日本語能力検定1級に向けて勉強中。文法や尊敬語、漢字の読みが難しいです。

Q 留学の経験を将来どのように活かしたいですか。  
A ガイドなど、身につけた日本語を台湾で活用できる仕事に就ければと思っています。

Q 追手門学院大学の学生にメッセージをお願いします。  
A ぜひ台湾にも遊びに来て下さい! 台湾人の良いところは「情熱」と「優しさ」です。

外国人交換留学生

オーストラリア サンシャインコースト大学  
留学期間—10ヶ月  
**Larchin, Sarah** さん

Q 日本に来た理由を教えてください。  
A 叔父が日本に住んでおり、子供の頃から日本の文化に興味を持っていました。

Q 追大の学生生活はいかがですか。  
A 日本語パートナーがいるため友だちもつくりやすく、クラブ活動で旅行研究会にも入っています。

Q 留学の経験を将来どのように活かしたいですか。  
A 言葉はもちろん、お互いの国の文化を深く理解した通訳者になるのが目標です。

Q 追手門学院大学への留学を終えて感想を一言。  
A 追大での思い出はいつまでも忘れません。語学の勉強をはじめ、留学はいい経験になりました。

交換留学体験者

国際教養学部 アジア学科 3年  
YUYA OTSU  
**大津 裕矢** さん  
派遣先 中国 上海師範大学 (約4ヶ月)

Q なぜ留学しようと思ったのですか。  
A これからは語学力が問われると思い、入学時から留学して中国語を学ぶことを決めていました。

Q 留学先(中国)で頑張ったことはありますか。  
A 授業や友だちづくりなど、現地ではとにかく積極的に動き、積極性と行動力が身に付きました。

Q 海外での経験を今後どのように活かそうと思いますか。  
A 語学力を活かし、海外で活躍したいですね。日本語教員や商社での仕事に興味を持っています。

Q 国際交流の第一歩は。  
A 短期間でもいいので、まずは一度現地に行ってみて、興味の幅を広げてみてください。

交換留学体験者

国際教養学部 英語コミュニケーション学科 4年  
MARIKO WATANABE  
**渡辺 真理子** さん  
派遣先 アメリカスノーカレッジ (約4ヶ月)

Q 留学しようと思ったきっかけは。  
A カナダへ短期留学し、英語の実力不足を実感。本格的に話せるようになりたいと交換留学に参加しました。

Q 留学先(アメリカ)で嬉しかったことはありますか。  
A 最初は距離があった現地知り合った学生と、話をしていく中で最終的に親友になったのがうれしかったです。

Q 海外で得た語学力は今後、役に立ちそうですか。  
A 商社に就職内定しており、英語力を活かして海外と交渉する仕事を手がけてみたいです。

Q 留学を考えている学生にメッセージ。  
A 留学は自分の考え方が大きく変わる体験になります。短期でもいいので参加してほしいですね。

交換留学体験者

国際教養学部 英語コミュニケーション学科 4年  
KEIICHIRO OYAMA  
**大山 圭一郎** さん  
派遣先 インド・グジャラート大学 (約3ヶ月)

Q インドへの留学を決めた要因は何ですか。  
A 追大に来ているインド人留学生に触発され海外に興味を持ち、留学を決意しました。

Q 留学先(インド)で衝撃を受けたことはありますか。  
A インドでは突然授業が休講になったり、時には先生の車の中で授業をすることもありました(笑)。

Q 現地の魅力を教えてください。  
A インドは日本とはまるで世界観が違います。何もかもが新鮮で、道を歩いただけで楽しいですよ。

Q 交換留学をしたい学生に一言お願いします。  
A 追大はインドへ交換留学ができる数少ない大学です。物おしせず、チャレンジしてみてください!



INTERVIEW

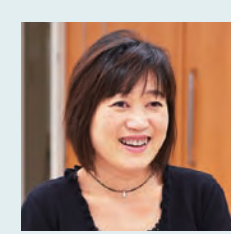
外国人交換留学生と交換留学体験者に聞く「留学体験」のホント。

[Interview: 杉本 恵美 / 難波 亮祐 / 古賀野 莉子 / 上田 美羽 / 木下 由純 / 松尾 駿]

留学なんでも



ここでは留学経験者の本学学生に集まっていただき、留学先でのエピソードや、その魅力についてQ&A方式で語ってもらいました。それとともに、現在本学で学んでいる海外からの留学生の声をお届けします!



国際交流教育センター長 (国際教養学部 英語コミュニケーション学科)  
**YUKO HAKOZAKI**  
箱崎 雄子 准教授

海外留学は、日本を知り自分を知る良い機会です。海外留学は現地の言葉や文化を学ぶのはもちろん、日本を知り、自分を知る良い機会です。学生時代には時間に余裕もあり、一定期間海外で学ぶには最適な時期でしょう。大学のプログラムなどを活用し、与えられたチャンスをぜひつかみとってください。



中国語現地演習	アジア フィールドワーク 【東南アジア・中国・韓国】	国際共同演習 【オレゴンセミナー】	カナダ現地演習 【バンクーバーセミナー】	海外セミナー 【ロンドンセミナー】
2013年8月上旬～	2013年9月上旬～	2013年8月上旬～	2013年8月上旬～	2013年8月上旬～
約4週間	8日間	約4週間	約4週間	約3週間
2012年12月上旬～ [説明会2012年12月上旬予定]	2012年12月上旬～ [説明会2012年12月上旬予定]	2012年12月上旬～ [説明会2012年12月上旬予定]	2012年12月下旬/1日のみ [説明会2012年11月中旬予定]	2012年12月下旬～ [説明会2012年12月中旬予定]
<b>140,700円</b> [2012年度実績]	シンガポール&マレーシア: <b>182,000円</b> 中国: <b>143,000円</b> / 韓国:未定 [全て2012年度実績]	<b>315,000円</b> [2012年度実績]	<b>391,000円</b> [2012年度実績]	<b>365,000円</b> [2012年度実績]
全学部 2年生以上 [渡航時] ※学部により履修単位に違いあり	国際教養学部 2年生以上 [渡航時]	全学部 2年生以上 [渡航時] ※学部により履修単位に違いあり	国際教養学部 2年生以上 [渡航時]	全学部 1年生以上 [渡航時]
 中国	    シンガポール マレーシア 中国 韓国	 アメリカ	 カナダ	 イギリス
<b>中国の歴史・文化の理解を深め、 中国語の集中レッスンを受ける。</b>  南京大学で中国語の集中レッスンを受けるとともに、当地の文化や歴史に触れる中国語現地演習。現地では日本語を専攻する南京大学の学生がサポートし、学内はもちろん、休日の観光案内などでも交流を深められる。	<b>現地の人とふれあいながら、 研究テーマを深める。</b>  北京・シンガポール&マレーシア・韓国・沖縄から希望コースを選び、現地へ1週間赴いて勉強する体験学習。少人数グループで行動し、現地の人とふれあいながら自らが選んだ研究テーマを深め、レポートにまとめる。	<b>ボランティア活動を通じて 生きた英語を学習する。</b>  ミュージアムや学童保育施設などでのボランティア活動に取り組み、社会経験を積むとともに生きた英語を学習。大学内にある附属語学学校での語学研修とボランティア活動を通して、国際人としてのスキルを磨く。	<b>多彩なプログラムのもと 実践的な英語能力を習得。</b>  カナダの映画・演劇鑑賞、テレビ・新聞のニュース分析、フィールドトリップなど、一般的な語学研修とは異なる授業と、全期間のホームステイにより、実践的な英会話や文化の違いを学習。事前・事後研修も実施する。	<b>ロンドンの文化や歴史、 経済を生きた英語で学ぶ。</b>  現地カレッジでの語学研修とロンドン市内の文化施設や世界遺産の見学などを通して、ロンドンの文化や歴史、経済を生きた英語で学ぶ3週間のコース。期間中はカレッジ内の寮に滞在する。
<b>南京大学</b> 中国国内でナンバー3にランクされる名門の総合大学。国際交流活動に積極的で、歴史を感じさせる学舎と、最新の機能を備えた施設や高層の学生寮などが、広大なキャンパスに並んでいる。  	 	<b>メルルハースト大学</b> 1893年に創立された歴史あるカトリック系の私立大学。自然豊かなオレゴン州に位置し、学生数約1,800名で14を超える国籍の学生が学んでいる。キャンパス内に附属語学学校のPacific International Academyがある。  	<b>サイモン・フレイザー大学</b> ハーバー・センターキャンパスはバンクーバー中心部に位置し、学部生だけでなく、社会人を対象にしたコースも提供。附属の語学学校で実践力向上に主眼をおいた多数の語学プログラムも開講されている。  	<b>リージェンツ・カレッジ・ロンドン</b> 国際都市ロンドン中心部、緑豊かなリージェンツ・パーク内にたたずむ美しいキャンパスが魅力。130を超える国籍の学生が、国際ビジネスから人文教養、映画・演劇、心理など幅広い分野のコースで学んでいる。  

日程  
期間  
申込期間  
費用  
対象者  
国  
内容

研修先  
大学

まもなく  
申込み開始！

▼

短期留学  
プログラム

Short-term  
Study  
Abroad  
Program

多彩な留学先と  
現地での  
プログラムを用意。

短期留学プログラムの申込み受付が、12月ごろから順次スタートする。行き先は中国をはじめとするアジア諸国から、アメリカ、カナダ、イギリスなどで、それぞれ多彩なプログラムが用意されている。参加を考えている学生は、参考にしてほしい。

※左表の日程は昨年実績。  
2012年度は変更の可能性ある。

### 5 Intensive English (中級・上級)

聞いた(読んだ)英語をそのまま理解する=「直聞・直解」をめざし、高い英語運用能力を習得するプログラム。中級コースは高校生レベル、上級コースはTOEIC®400点程度のレベルからスタートし、英語力を向上させる。

申込期間	各学期の開始時から約10日程度の期間に募集
期間	春学期・秋学期
備考	詳細については国際交流教育センターまで

### 4 目からウロコの 話せる英文法講座

「英語が苦手」と思う学生にぴったりの講座。英文法を基礎から学ぶとともに、ネイティブの講師との会話を通じて、話すチカラを身につける。「難しい」「話せない」と苦手意識を持っている人にぜひ参加してもらいたい講座だ。

申込期間	各学期の開始時から約10日程度の期間に募集
期間	春学期・秋学期
備考	詳細については教務課教務係まで

### 3 日本語パートナー

アメリカや中国、韓国、ヨーロッパなどから本学にやってきている交換留学生を対象に、日本語学習をサポートするのが日本語パートナーの主な役割。コミュニケーションを通じて、留学生の母国語の勉強にもつながる。

申込期間	各学期の開始時から約10日程度の期間に募集
期間	春学期・秋学期
備考	詳細については国際教養学部 / 梅村修先生まで

### 2 TOEIC® 600点対策講座

国際交流センターが主催する特別講座。TOEIC®450～530点の学生を対象に、ノウハウに定評のある語学学校の講師を招き、対策講座として開講。短期集中の講座を通じて、600点以上のスコアをめざす。

申込期間	4月初旬締切
期間	春学期
対象	TOEIC®450点～530点の英語力を有する学生
備考	詳細については国際交流教育センターまで

### 1 Japan Program

日本文化、社会、歴史、経済、経営、政治などについて、すべて英語で講義される特別コースの「Japan Program」。留学生向けの授業だが日本人も参加することができ、異文化交流の絶好の機会となっている。

申込期間	各学期の開始時から約10日程度の期間に募集
期間	春学期・秋学期
対象	TOEIC®450点以上または英検2級以上
備考	詳細については国際交流教育センターまで

英語力アップ & 学内国際交流プログラム

留学に行くなら  
学内でも語学力を磨こう!

